其の弐

熊本城復興支援キャンペーン第四弾

「甦る、国のたから～熊本城復活への軌跡～」では、皆さんの温かい応援を熊本城へ届けるため、毎月1回、熊本城内を伝えています。これまでの特集紙面は特設サイトにて公開いたします。

https://lets.kumanichi.com/kumamotojo/

提唱 熊本日日新聞社　協力 熊本市　企画・制作 / 熊本日日新聞社 事業推進局

2021年11月の馬具櫓

解体保存工事が進行中 馬具櫓

行幸橋近くの石垣櫓は、西櫓から出た隅櫓（通称・馬具櫓）。1945（昭和20）年に大部分が焼失されたものの、櫓の基礎は残っていました。しかし、その後の倉庫や櫓・石垣の崩落などが重なり、櫓は埋もれていました。2018年から2019年にかけて、櫓の調査が行われ、櫓の基礎が見つかりました。その後、馬具櫓と名付けられました。

熊本城復興支援プロジェクトの一環として、2020年度から2022年度にかけて、櫓の復元に向けた調査・設計を行う事業が始まりました。今年度は、調査・設計の3年目。2月末に、馬具櫓の解体保存工事がスタートし、2月初旬、馬具櫓は瓦取り外しが進んでいました。

坪井川対岸から工事の様子を眺めると、巨大な青い鉄骨がひと目見ただけでも分ります。解体保存工事中に馬具櫓が倒壊しないように設置された仮設の鉄骨です。

馬具櫓の解体保存工事を担当する柿本安成さん（左）と、石垣の復旧工事を担当する石松昭さん。しっかりと連携しながら、熊本城の復旧を一歩一歩進めています

馬具櫓から取り外された瓦、洗浄後、丸太に保管されます

安全に配慮して設置された九具櫓の仮埋め込み構造

工事現場で熊本大学名誉教授の山尾敏孝さん。専門は土木工学。多様な専門家が集う熊本城文化財修復検討委員会の委員長として、合わかに取り組む思います。

櫓は、「馬具櫓の復元」と「櫓の修復」の2つに分けられます。「馬具櫓の復元」は、「櫓の修復」に先駆けて、2月末から、櫓の基礎の上に、櫓の形状を復元する作業が始まります。

「櫓の修復」は、「櫓の修復検討委員会」を開催し、「櫓の修復方針」を、専門家による検討委員会で議論しました。工事は、「櫓の修復」と「馬具櫓の復元」の2つに分けます。

「櫓の修復」は、「馬具櫓の復元」に先駆けて、2月末から、櫓の基礎の上に、櫓の形状を復元する作業が始まります。

「馬具櫓の復元」は、「櫓の修復」に先駆けて、2月末から、櫓の基礎の上に、櫓の形状を復元する作業が始まります。

「櫓の修復」は、「馬具櫓の復元